

記者会見

平成 28 年 2 月 17 日（水）11 時～11 時 45 分

平成 28 年生駒市議会（第 1 回）臨時会（2 月）提出議案の概要

（質疑）

記者 高山地区第 2 工区用地取得費用 3 億 4000 万円の根拠を教えてください。都市再生機構（以下、UR）は、600 億円ほどで購入していましたが、どういう風に落ち着いたのですか。

市 この金額は、UR から提示があった数字と理解ください。この数字は、先日実施した不動産鑑定と比べても、約 10 分の 1 程度の低い額です。土地取得だけではなく、管理やまちづくり検討に係るコスト、まちづくり・開発による地域のポテンシャルを含めて考えても、十分適切な額だと考えています。なお、金額の内訳は、UR に聞いてください。

記者 UR の提示額をそのまま了承したということですか。

市 金額合意の過程に、管理コストなども含めて調整した数字で、適切だと考えています。

記者 全ての土地取得まで 4 年かかるようですが、一括払いですか、分割払いですか。

市 3 月議会定例会に土地取得の契約締結議案を出したいと思っています。その後、平成 28 年度に 3 割ほど前金を払って、30 年度に残金を支払うと考えています。

記者 数字の確認ですが、取得面積は 132.5 ヘクタールですか。

市 そうです。公募面積で約 132.5 ヘクタールです。

記者 地権者は 860 人ぐらいですか。

市 過去から変わっているかもしれませんが、約 850 人以上です。

記者 土地鑑定額の内訳を教えてください。

市 当初は 2 者から鑑定をとる予定でしたが、最終的には 1 者から鑑定を受けました。UR との交渉段階で、出てくるであろう鑑定額よりかなり安い金額の提示が想定されましたので、1 者のみの鑑定としました。価格内示額としては、132.49 ha で 31 億 9800 万円でした。

記者 市長が説明した「まちづくり 4 つのポイント」で、1 番重要なのはどこですか。

市 どれが一番重要ということではなく、全て重要です。最初に問題意識として持ったのは、現状のまま放っておくことのデメリット・問題が大きくなりつつあるということです。荒地も出てきていますし、開発が無秩序に行われかねないことの危機感もありました。精華・西木津地区の動きを見ていると、地域がもつポテンシャルもあります。そこが一つ大きなポイントです。その上で、市だけでは事業は進められませんが、奈良県やURなど関係者を含めてお力をいただけるという見通しがつきましたので、取得を決断しました。

記者 県の理解を得られているということですが、県とはすでに話をしていることでしょうか。

市 市だけで進めるというわけにはいきませんので、県と取得の調整は進めています。知事にもご説明にあがっています。具体的な担当課も紹介いただき、どのような形でまちづくりをすすめていくか、今後も県と相談しながら進めていきます。県からも前向きにご支援ご協力いただけると見通しもいただいたので、それも含めて取得の方向で決断しました。こうした内容を公文書にまとめて、本日中に県へ提出します。

記者 県のどこの部署に出すのですか。

市 生駒市長から奈良県知事に提出します。

記者 県の担当はどこですか。

市 まちづくり推進局です。

記者 4年前、この地区にリニアを誘致したいと言っておられました、今はどう考えていますか。

市 当該地域にリニアの駅は誘致することは諦めた訳ではありませんが、具体的にこの地域のまちづくりを考えたとき、リニアの駅が大阪まで延伸されるのが2045年になり、当該土地の取得が平成30年度になるので、時間軸がずれてしまいます。ですので、リニアにひっぱられすぎないようにまちづくりはしないといけないという認識はあります。リニアの駅の誘致だけでいえば引き続き生駒に誘致することは考えています。リニアは頭に入れながらも、適切なまちづくりを進めていきます。

記者 来年度から始まる検討の段階では、県の担当者も入ってくるんですか。

市 市の思いとしては、県や学研都市推進機構、大学の先生などに入っていたきたいです。できれば、地域の方々にも入っていただければと思っています。

記者 「10年前、前市長が白紙撤回したことがこの問題の原因である」と市長が説明されていきました。市民から選ばれた前市長が出した方針が、結果的に10年でこうなってしまったということです。私のイメージでは、生駒市が県に対しても全面降伏したような話に聞こえましたが、どうですか。

市 どのように取っていただくのは自由ですが、全面降伏ではなく、このまま土地を置いておくっていうデメリットが大きいですし、ポテンシャルもある地域です。前市長が就任されたときの開発イメージは、非常に大きなニュータウンを作るというもので、それ自体が難しいという判断だったということもあります。県との調整も最後でうまく合意できなかったこともありました。その結果、荒地が増え、ポテンシャルがうまく引き出せていないことになったのは、私の認識では事実だと思っています。それをしっかりと受けとめて、改めて、新しい道を高山第2工区に作りたいと思っています。それが、昨年市民の皆さんに選んでもらった市長としての決断として進めていく方向性という認識です。

記者 知事に話したのは、2月9日（火）でよかったですか。

市 そうです。